



紺絲素懸威具足 伝 徳川家茂所用

目 次

博物館のあゆみ

平成18年度 2

平成19年度 8

博物館の名品 13

博物館のあゆみ

平成 18 年度

館 内 業 務

1. 特別展

○特別展「徳川將軍家ゆかりの人形とひな道具」

会期＝平成 18 年 3 月 3 日～4 月 6 日

（財）徳川記念財団と共催。大徳川家伝来（鷹司家・越前松平家旧蔵）の内裏びな等を特別に公開。徳川宗家・国立歴史民俗博物館の優品を多数展示。

2. 平常展

○会期＝平成 18 年 4 月 7 日～平成 19 年 3 月 31 日

館蔵の優品に（財）徳川記念財団の蔵品を加え展示。適宜展示替。尚、（財）徳川記念財団蔵の新出史料 柴田勝家文書を 6 月 2 日まで初公開。

3. 館報第 19 号の発行

○平成 18 年 9 月 17 日

平成 16・17 年度の博物館のあゆみを報告する「館報第 19 号」を発行し、関係諸機関に配布。



伊達政宗自筆書状 立花宗茂宛 慶長 15～19 年ノモノナラン

館 外 業 務

1. 資料の出品

○大河ドラマ『功名が辻』特別展「山内一豊とその妻」

①会期・平成 18 年 4 月 15 日～5 月 28 日

会場・静岡県立美術館

②会期・平成 18 年 7 月 15 日～8 月 31 日

会場・高知県立文学館

大黒頭巾形兜（徳川家綱寄進）と薙刀国宗（付拵）を出品。

○「お殿様の遊芸」展

会期・平成 18 年 9 月 23 日～10 月 22 日

会場・板橋区立美術館

鷺図・枯木梟図・鶏図・稼穡図屏風・桃小鳥図・臥馬図・洋犬図・旭日紅梅図・竹金雀図・日本風景（油彩）を出品。

○企画展「徳川将軍家と会津松平家」

会期・平成 18 年 9 月 30 日～11 月 5 日

会場・福島県立博物館

金扇馬標・プレモカメラ・西洋風景（油彩）を出品。

○企画展「歴史のなかの鉄炮伝来—種子島から戊辰戦争まで—」

会期・平成 18 年 10 月 3 日～11 月 26 日

会場・国立歴史民俗博物館

重文火縄銃（付属品とも）と紺絲素懸威具足（徳川家光所用）を出品。

○企画展「徳川四天王」

会期・平成 18 年 10 月 7 日～11 月 19 日

会場・岡崎市美術博物館

重文齒朶具足・鞍・火縄銃・脇指貞宗（付合口拵）と鎧長吉を出品。

○特別展「江戸城」

会期・平成 19 年 1 月 2 日～3 月 4 日

会場・江戸東京博物館

重文齒朶具足と貫衆具足の兜を出品。

○「徳川家茂とその時代」展

会期・平成 19 年 1 月 2 日～3 月 4 日

会場・江戸東京博物館

徳川家茂遺品（具足 2・刀剣 2・陣羽織・胴着・馬面・床几・袴 2・腰当・尻鞆・鞭・麾・軍扇・決拾・貫・書）18 件を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・平成 18 年 6 月 27 日

会場・静岡県立美術館

平成 18 年度総会が開催され、藤田副館長・小林学芸部長が出席。

3. 東海地区博物館連絡協議会総会

期日・平成 18 年 7 月 14 日

会場・多治見市

平成 18 年度総会が開催され、斎藤学芸員が出席。

4. 大名道具収蔵館研究会

期日・平成 18 年 11 月 29 日～ 30 日

会場・長野市

第 15 回研究会が開催され、小林学芸部長が出席。研究会の後、真田宝物館・真田家菩提寺を視察。



大名道具収蔵館研究会出席者

庶務報告

1. 平成 18 年度入館者状況

区分 月	大 人	小 人	団 体	ロープウェイ と共通	クーポン	無 料	計
4 月	2,863	234	689	414	169	31	4,400
5 月	3,858	268	1,279	610	404	31	6,450
6 月	1,922	99	940	258	232	25	3,476
7 月	1,698	198	788	350	233	10	3,277
8 月	2,660	504	491	422	197	53	4,327
9 月	2,224	84	1,021	229	168	3	3,729
10 月	2,796	183	2,027	461	456	46	5,969
11 月	2,582	90	926	436	353	10	4,397
12 月	1,234	130	204	185	23	7	1,783
1 月	3,785	283	1,119	384	126	30	5,727
2 月	3,220	248	905	632	232	20	5,257
3 月	3,267	332	1,242	543	287	17	5,688
計	32,109	2,653	11,631	4,924	2,880	283	54,480

2. その他

- 4 月 7 日、(財)徳川記念財団学芸員柳田直美・徳川典子両氏が特別展の資料撤収に来館。
- 4 月 11 日、資料解梱点検のため、小林学芸部長が(財)徳川記念財団へ出向。
- 4 月 12 日～13 日、「山内一豊とその妻」展の飾り付けに小林学芸部長が静岡県立美術館へ出向。
- 4 月 14 日、「山内一豊とその妻」展の開催式に落合館長・小林学芸部長が出席。
- 4 月 24 日、日本テレビ中瀬博治氏が重文鉛筆の取材・撮影に来館。
- 4 月 25 日に静岡新聞岡本妙氏、5 月 2 日にテレビ静岡矢作武寛氏、5 月 24 日にドリームウェーブ静岡豊嶋浩司氏が各々柴田勝家文書初公開の取材に来館。
- 5 月 2 日、7 月 7 日、8 月 31 日及 11 月 9 日、(財)徳川記念財団学芸員徳川典子氏が、資料の展示替えに来館。
- 5 月 5 日、子供の日にあたり、父兄同伴の子供を無料とした。
- 5 月 29 日～30 日、「山内一豊とその妻」展の資料撤収に小林学芸部長が静岡県立美術館へ出向。
- 6 月 9 日、能美防災、器具を点検。
- 6 月 10 日、静岡新聞・朝日新聞が高松宮家下賜の長持を取材。

- 6月21日、日本博物館協会の館長会議に落合館長が出席。
- 6月23日、館内の温度を23℃に変更。
- 7月9日～11日、「山内一豊とその妻」展の飾り付けに小林学芸部長が高知県立文学館へ出向。
- 7月28日、私立美術館会議（於三井記念美術館）に落合館長が出席。
- 8月7日、館報編集のため、小林学芸部長が艸藝社へ出向。
- 8月23日、朝日エンジニアリングが空調設備を点検。
- 9月6日、（掛川市二の丸美術館）・14日（浜松市・森町・掛川市）・16日（榛原町・静岡市）、「山内一豊とその妻」展の用務にて小林学芸部長が各所へ出向。
- 9月15日、NHK プロモーション新名貴博氏が資料返品に来館。板橋区立美術館長安村敏信氏、同日資料借用に来館。
- 9月17日、静岡県博物館協会講演会（於浅間神社）に落合館長が参加。
- 9月19日、岡崎市美術博物館堀江登志実氏が資料借用に来館。
- 9月21日、福島県立博物館高橋充氏・国立歴史民俗博物館斎藤努氏がともに資料借用に来館。
- 10月5日、「徳川四天王」展の飾り付けに小林学芸部長が岡崎市美術博物館へ出向。
- 10月16日、「徳川家茂とその時代」展の用務で小林学芸部長が江戸東京博物館へ出向。
- 10月20日、同展の資料調査で小林学芸部長が福井市立郷土歴史博物館へ出向。
- 10月31日及11月16日、同展の図録編集会議に小林学芸部長が財団法人徳川記念財団へ出向。
- 11月6日及12月12日、大徳川展の会議に小林学芸部長がテレビ朝日へ出向。11月28日に同展用務で徳川美術館へも出向。
- 11月8日、仙台市博物館元館長浜田直嗣氏が仙台市史の資料調査に来館。
- 11月11日、彦根城博物館学芸員高木文恵氏が出品依頼に来館。
- 11月14日、東海テレビ黒川和憲氏が資料撮影に来館。
- 11月20日、「徳川四天王」展の資料撤収に小林学芸部長が岡崎市美術博物館へ出向。
- 11月21日、清水区の土橋明氏が天皇陵印のことで来館。
- 11月27日、故徳川義宣氏を偲ぶ会（於ウェスティンナゴヤキャスル）に落合館長・藤田副館長・小林学芸部長が出席。
- 12月8日、能美防災、器具を点検。
- 12月11日、館内の温度を20℃に変更。
- 12月26日、「江戸城」展の飾り付けに小林学芸部長が江戸東京博物館へ出向。
- 12月29日、「徳川家茂とその時代」展の飾り付けに小林学芸部長が江戸東京博物館へ出向。
- 1月9日、大徳川展の用務で小林学芸部長が東京国立博物館へ出向。
- 1月16日（於テレビ朝日）・2月7日（於東京国立博物館）及3月30日（於水府明徳会事務所）、大徳川展の企画会議に小林学芸部長が出席。

- 1月24日、防火訓練を実施。
- 1月30日、中部日本放送テレビ制作部萩原雄太氏が重文洋時計・白檀塗具足を取材撮影。
- 2月5日、「江戸城」展の展示替えに小林学芸部長が江戸東京博物館へ出向。
- 2月16日、静岡県文化財保存協会杉山元衛氏一行100余名が来館。
- 2月20日、静岡市教育委員会中野宥氏が静岡大学教授小和田哲男氏を同行し、市の紹介ビデオ収録の撮影に来館。
- 2月24日、大徳川展の用務で小林学芸部長が東海大学校友会館へ出向。
- 3月5日、「徳川家茂とその時代」展の資料撤収に小林学芸部長が江戸東京博物館へ出向。
- 3月15日、NHKディレクター川畑仁志氏が重文薬道具等の取材・撮影に来館。
- 3月28日、徳島城博物館学芸員根津寿夫氏が出品依頼に来館。
- 3月29日、朝鮮通信使制作プロジェクト山本起也氏等が家康像の撮影に来館。
- その外、この期間に下記の方々が来館した。

塩川友弥子氏（全日本博物館学会々員、4月6日）、錫田孝一氏（艸藝社代表取締役、4月17日）、斎藤慎一氏（江戸東京博物館学芸員、4月19日、12月23日及3月12日）、藤沢学氏（銀杏社室長、5月16日）、安村敏信氏（板橋区立美術館長、5月17日及10月24日）、高源寺副住職（5月23日）、本多隆成氏（静岡大学教授、6月1日）、黒沢脩氏（静岡市社会教育課、6月3日）、川延安直氏・小林めぐみ氏（福島県立博物館、6月6日）、下鳥弘枝氏（リビングアートジャパン、6月9日、12月14日及1月26日）、辻維周氏（霞会館、6月18日、10月7日及2月15日）、宇田川武久氏（国立歴史民俗博物館教授、6月28日）、中野宥氏（静岡市教育委員会、7月12日及1月24日）、植松俊男氏（日通静岡美棚、7月20日）、森威史氏（元当館副館長、7月22日）、広田潤氏（静岡市観光課、8月4日）、天野忍氏（静岡県立中央図書館長、10月14日及1月2日）、加茂嘉胤氏（元東照宮祢宜、10月24日）、高橋充氏（福島県立博物館主任学芸員、11月10日）、杉山明美氏（岡崎市美術博物館、12月1日）、斎藤努氏（国立歴史民俗博物館、12月1日）、原史彦氏（江戸東京博物館学芸員、12月23日及3月12日）、徳川典子氏（財徳川記念財団、12月23日、1月31日及3月12日）、井口信久氏（川越市立博物館学芸員、12月31日）、田中文雄氏（静岡県立中央図書館、12月31日）、松本稔章氏（静岡県文化課、1月24日）、上田紘司氏（朝鮮通信使制作プロデューサー、1月27日）、山本起也氏（京都造形芸術大学助教授、1月27日）、大塚頼母氏（静岡ビジネス社、2月3日）、森基氏（朝日メディアブレーン、2月16日）、小澤一彦氏（テレビ静岡報道部副部長、2月22日）、川畑仁志氏（NHKディレクター、3月2日）、望月康氏・袴田昭彦氏（静岡新聞社、3月9日）、影山満氏・竹内礼子氏・高岡基氏（駿府静岡歴史楽会、3月26日）、東大日本史研究生24名（3月29日）

平成 19 年度

館 内 業 務

1. 平常展

○会期＝平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日

館蔵の徳川家康遺品・歴代将軍の武器武具及び書画を適宜展示替えし、(財)徳川記念財団の優品を書画を中心に加え、展示。

館 外 業 務

1. 資料の出品

○「駿府を最も愛した家康公を偲んで」展

会期・平成 19 年 9 月 27 日～11 月 22 日

会場・静岡市文化財資料館

東照大権現像と徳川十六将図を出品。

○特別展「秀吉お伽衆一天下人をとりまく達人たち」

会期・平成 19 年 10 月 6 日～11 月 11 日

会場・大阪城天守閣

織田信雄覚書（徳川家康宛）を出品。

○大徳川展

会期・平成 19 年 10 月 10 日～12 月 2 日

会場・東京国立博物館

国宝太刀真恒、重文太刀光世・齒朶具足・洋時計・鉛筆・目器・和剂局方・鞍等 23 件を出品。

○「戦国から泰平へー井伊直政から直孝の時代へー」展

会期・平成 19 年 10 月 27 日～11 月 25 日

会場・彦根城博物館

東照大権現像と紅絲威具足を出品。

○特別展「秀吉の町・家康の町」

会期・平成 19 年 10 月 27 日～11 月 25 日

会場・徳島城博物館

東照大権現像（天海賛写）と大黒頭巾形兜を出品。

○特集展示「家康・吉宗・家達～転換期の徳川家～」

会期・平成 20 年 2 月 5 日～3 月 23 日

会場・江戸東京博物館

徳川吉宗所用鎧直垂、重文太刀国行（付太刀拵）、伝徳川吉宗一行書対幅、徳川慶喜・

家達像、徳川家達一行書を出品。

○特別展「御三卿 一橋徳川家」

会期・平成 20 年 2 月 9 日～ 3 月 23 日

会場・茨城県立歴史館

徳川吉宗所用の紺絲威鎧と紅絲威八方白星兜を出品。

○「天璋院篤姫」展

会期・平成 20 年 2 月 19 日～ 4 月 6 日

会場・江戸東京博物館

徳川家定所用の青絲威具足・裁着袴、徳川家茂所用の白羅紗陣羽織・紫羅紗筒袖陣羽織を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・平成 19 年 5 月 29 日

会場・静岡県立美術館

平成 19 年度総会が開催され、落合館長・斎藤学芸員が出席。

3. 東海地区博物館連絡協議会総会

期日・平成 19 年 7 月 25 日

会場・静岡県立美術館

平成 19 年度総会が開催され、小林学芸部長・斎藤学芸員が出席。

4. 大名道具収蔵館研究会

期日・平成 19 年 11 月 8 日～ 9 日

会場・仙台市博物館

第 16 回研究会が開催され、小林学芸部長が出席。

5. 全国博物館大会

期日・平成 19 年 11 月 15 日～ 16 日

第 55 回大会が新潟県長岡市で開催され、斎藤学芸員が出席。

庶務報告

1. 平成 19 年度入館者状況

区分 月	大 人	小 人	団 体	ロープウェイ と共通	クーボン	無 料	計
4 月	3,062	290	933	475	107	20	4,887
5 月	3,584	287	1,751	745	224	30	6,621
6 月	1,777	51	1,167	438	65	59	3,557
7 月	1,540	127	819	250	36	14	2,786
8 月	2,658	630	566	519	20	15	4,408
9 月	2,610	108	1,073	581	50	39	4,461
10 月	2,860	153	1,469	815	221	11	5,529
11 月	2,857	198	1,215	767	188	16	5,241
12 月	1,704	122	638	268	51	4	2,787
1 月	3,427	334	1,305	646	60	32	5,804
2 月	2,689	191	1,176	490	36	37	4,619
3 月	3,372	350	1,104	573	97	17	5,513
計	32,140	2,841	13,216	6,567	1,155	294	56,213

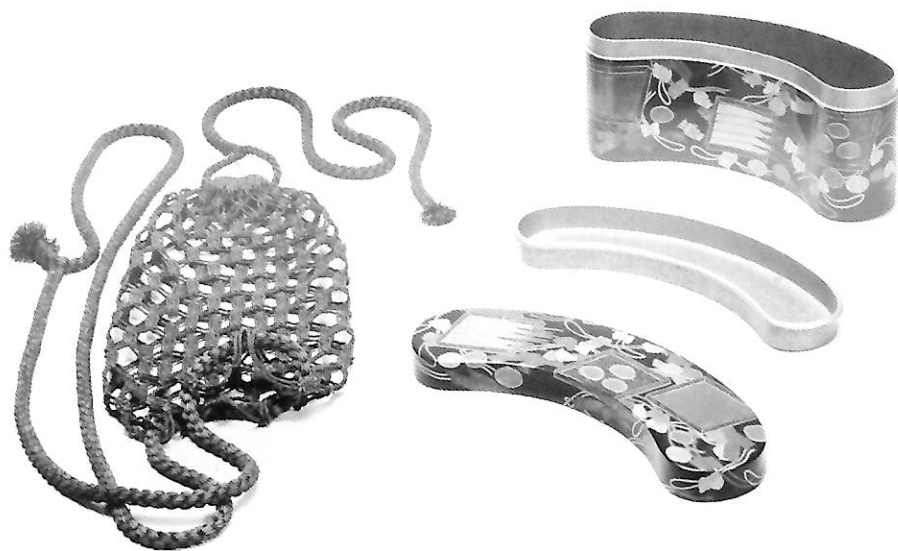
2. その他

- 4 月 5 日、静岡新聞社編集局記者加藤愛巳氏が駿府城の取材に来館。
- 4 月 17 日、静岡第一テレビと SBS 静岡放送が家康像を撮影。
- 4 月 20 日、茨城県立歴史館学芸部石川武治氏・永井博氏他 1 名が出品依頼に来館。
- 4 月 25 日～ 26 日、高岡市教育委員会文化財課主任栗山雅夫氏・富山県埋蔵文化財センター調査課主任岡本淳一郎氏が廟所調査に来館。
- 4 月 27 日・5 月 11 日・6 月 20 日・6 月 26 日・7 月 31 日・8 月 22 日及び 9 月 5 日（於東京国立博物館、但し 6 月 26 日はテレビ朝日）、大徳川展の企画会議に小林学芸部長が出席。
- 5 月 10 日・7 月 9 日・10 月 12 日・1 月 11 日及 2 月 28 日、(財)徳川記念財団学芸員徳川典子氏が資料の展示替えに来館。
- 6 月 10 日（時の記念日）、洋時計の音を鳴らし、NHK・SBS・共同通信社が取材に来館。
- 6 月 12 日、12 月 17 日及 2 月 4 日、能美防災が館内を点検。
- 6 月 13 日、日本博物館協会の博物館長会議に落合館長が出席。
- 6 月 21 日、静岡市文化財資料館長若杉守氏が同市教育委員会大村和男氏と出品依頼に来館。
- 6 月 28 日、館内の温度を 23℃に変更。

- 7月12日及9月10日、SBS 静岡放送が取材・撮影に来館。
- 7月24日、大阪城天守閣主任学芸員宮本裕次氏が出品依頼に来館。
- 7月29日、静岡高松中学1年の中村君が自由研究に来館。
- 8月1日、社殿の狛犬1軀を博物館前に移動。
- 8月6日、2階展示室の空調機排気ファンが故障。8月10日に修理。
- 8月20日、文化庁の斉藤孝正氏が海外展の件で来館。
- 9月12日、日本博物館協会の会議（於尚友会館）に落合館長が出席。
- 9月14日、大徳川展出品資料の点検・梱包が行われ、翌15日に搬出。
- 9月21日、大阪城天守閣主任学芸員宮本裕次氏が史料借用に来館。
- 9月24日、日本平ロープウェイのピーアールで館内を撮影。
- 9月27日、静岡市文化財資料館長若杉守氏が太村和男氏同伴にて資料借用に来館。
- 10月1日～3日、大徳川展の飾り付けに小林学芸部長が東京国立博物館へ出向。
- 10月5日、徳川美術館の新館20周年記念式典に藤田副館長・小林学芸部長が出席。
- 10月9日、大徳川展（於東京国立博物館）の開会式に落合館長・藤田副館長・小林学芸部長が出席。
- 11月19日、NHK プロモーション田中明美氏・（財）徳川記念財団柳田直美氏が篤姫展の出品依頼に来館。
- 11月27日、江戸東京博物館斎藤慎一氏が「家康・吉宗・家達」展の出品依頼に来館。
- 12月3日～5日、大徳川展の撤収に小林学芸部長が東京国立博物館へ出向。
- 12月12日、静岡市安東中学2年林君等4名が個人研究に来館。
- 1月21日、防火訓練を実施。
- 2月1日、静岡県博物館協会の講習会に斎藤学芸員が参加。
- 2月7日、静岡県博物館協会要請のぐるっとパス説明会に小林学芸部長が出席。
- 2月16日、天璋院篤姫展の飾り付けに小林学芸部長が江戸東京博物館へ出向。
- 3月21日、板橋区立郷土資料館学芸員小西雅徳氏が出品依頼に来館。同日、空調機を修理。
- 3月27日、静岡市指定文化財調査に小林学芸部長が由比町へ出向。
- その他、この期間に下記の方々が来館した。

山岡景恭氏・水野完太郎氏・興津昭夫氏・佐藤任宏氏・小栗三沙氏・小堀洋一氏・成瀬淳子氏（柳営会、4月17日）、鵜田孝一氏（艸藝社代表取締役、4月17日、8月26日及12月26日）、清水淳氏（静岡第一テレビ、4月17日）、柳沢亜弓氏（SBS 静岡放送、4月17日）、山田三樹氏（県文化財保存協会、4月21日）、影山満氏（駿府静岡歴史楽会、4月23日及6月10日）、竹内礼子氏（同上、4月23日、6月10日及7月16日）、渡辺氏（静岡市観光課、5月10日）、谷分道長氏（皇大神宮別宮月談宮、5月16日）、小松正治氏（SBS 静岡放送、6月28日）、志賀太郎氏（徳川美術館学芸員、7月1日）、三本松広樹氏・広田潤氏（大御所400年祭推進室、7月11日）、田中克典氏（ジーアイ・ビー東京支社長、7月11日）、朝原和仁氏・小森葉子氏（電通、7月11日）、柳田直美

氏（財徳川記念財団主任学芸員、7月24日）、倉田泰孝氏（テレビ朝日事業部、7月24日、9月14日及12月14日）、上甲淳子氏（便利堂、8月7日）、榛葉隆行氏・福島正英氏（静岡新聞編集局、9月12日）、原田一敏氏・酒井元樹氏（東京国立博物館、9月14日、12月13日及14日）、立道恵子氏（東京国立博物館、9月14日）、大滝佳行氏（テレビ朝日報道局ディレクター、9月14日）、杉山嘉章氏（静岡県産業部国際アビリンピック推進室長、9月30日）、小山友孝氏・杉山秀宏氏（群馬県立歴史博物館、10月9日）、根津寿夫氏（徳島城博物館、10月15日及11月29日）、高木文恵氏（彦根城博物館、10月22日）、小野真一氏（元加藤学園沼津考古学研究所長、10月26日）、文部省筑波研修会15名（10月30日）、地方紙火曜会（11月2日及22日）、宮本裕次氏（大阪城天守閣主任学芸員、11月21日）、若杉守氏・大村和男氏（静岡市教育委員会、11月22日）、野田浩子氏（彦根城博物館、11月29日）、山田剛氏（静岡市経済局、12月7日）、高瀬直樹氏（SBS 静岡新聞編集局、12月12日）、中村肇氏（SBS 静岡新聞事業局、12月12日）、岡野吐夢氏（テレビ朝日事業部、12月13日及14日）、井口信久氏（川越市立博物館学芸員、12月31日）、神谷聡一郎氏（静岡銀行最高顧問、1月3日）、中村憲司氏（静岡日通美術課プランナー、1月10日）、辻維周氏（霞会館、1月12日）、山田成洋氏（静岡中央高進路課、1月27日）、永井博氏（茨城県立歴史館、1月31日）、斎藤慎一氏（江戸東京博物館、2月1日）、難波優子氏（NHK プロモーション、2月1日）、鈴木道人氏（鳳来山東照宮宮司、2月5日）、小松錦司氏（浜松市議会委員長、3月4日）、石川武治氏（茨城県立歴史館、3月29日）



博物館の名品 44

黒漆勝栗金銀蒔絵腰桶（こくしつかちぐりきんぎんまきえこしおけ）

徳川家光所用 一合

腰に携帯する飯盒のような形をした弁当箱である。蓋裏と身は黒漆地に勝栗や熨斗鮑などの吉祥文様を一面に金銀蒔絵し、内部と懸子は金梨子地とする、美しい漆工の優品である。重量も 150 グラムと軽く。腰に結ぶ紺麻の網袋も付随する。

『御代々御召御具足并御小道具帳』所載。

長 21.7 高 9.3cm

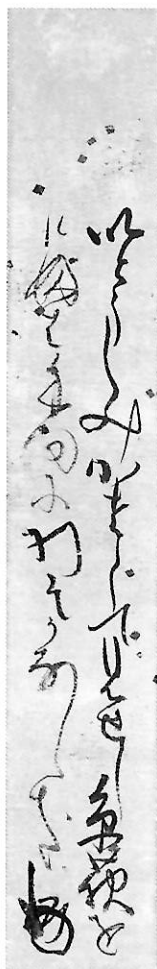


博物館の名品 45

白羅紗陣羽織（しろらしゃじんばおり）徳川家茂所用 一領

陣羽織は具足羽織とも称し、戦国時代より武将の間で軍陣に用いられた胴服である。この家茂所用の陣羽織は、身頃と小鰭の地質を白羅紗とし、背に大きく黒羅紗の三葉葵紋を切り嵌め、前身頃の返し襟には茶地変り菱入り小花襷の斜格子文様金襴を使用しており、若き將軍の料に相応しく華やかさの中に気品漂う趣致がある。

丈 98.3 衿 25.5cm



博物館の名品 46

井伊直弼和歌短冊（いいなおすけわかたんざく） 一幅

幕末の彦根藩主井伊直弼（1815～1860）が親しきものの死に涙して詠じた一首「いとうしみかさして見せし糸萩をけふは手向に折そかなしき」を美しい短冊に認めたもので、自署の代わりに花押を副えている。直弼の歌集である『柳廼四附』未収の詠で、弔歌の内容に相応しく一文字を萩の描表具とする。

彩箋墨書。

縦 36.5 横 6.0cm

久能山東照宮博物館報

—— 第 20 号 ——

平成20年9月17日 発行

編集発行 久能山東照宮博物館
〒422-8011 静岡市駿河区根古屋390
TEL.054(237)2437

印刷 有限会社艸藝社
〒104-0041 中央区新富1-15-14
TEL.03(5540)6421